

九谷焼が伝える 芸術の美、 普段使いの美

芸術的な九谷焼の典型的な作品は、加賀市の石川県九谷焼美術館で鑑賞できる。

加賀藩の支藩である大聖寺藩初代藩主前田利治が、九谷村で陶石

が発見されたのを機に、磁器生産を始めさせたのは1655年頃。だが50年ほどで突如磁器作りが行われなくなる。財政難、指導者の死などが理由と推測されるが定か

ではない。この時代の作品は古九谷と呼ばれる。再び九谷の地で磁器生産が開始されたのは、1824年。当初は九谷村に登窯が築かれたが、すぐに山代温泉近くに移された。これを再興九谷という。

九谷焼の特徴は、大きく3つに分けられる。古九谷から継承された緑、黄、紺青、紫の四彩を用い、奔放な筆使いが独特な「青手」。中国陶磁器の影響を受け、四彩に赤を加えた「色絵・五彩」は、山水、花鳥風月などを大胆かつ優雅に描いている。宮本屋窯の職人が確立した赤絵と、京都の永楽和全が伝えた金襴手。またそれらを融合させた赤絵金襴手は「赤絵・金襴」としてまとめられている。細かな図柄が白地に浮かぶ優美な赤の世界は印象的だ。

ちなみに、派手で明るい作品が多いのは、冬場の暗い部屋でできるだけ明るく見せるためだったとも言われている。



魯山人ゆかりの 山代温泉菁華窯

「魯山人は食べもののために器を作りました。作陶の目的がはっきりしていた。彼は何事も自分で道を切り開いた人でしょう。初代菁華も独歩の人でしたから気が合ったのかもしれない」
4代目須田菁華さんは、にこやかにそう語った。

北大路魯山人。書家、篆刻家、陶芸家、美食家などその肩書きはいくつもあり、齒に衣着せぬ発言でも有名だ。毀誉褒貶相半ばする人物として今も語り継がれる。1915(大正4)年、魯山人は金沢の資産家に連れられて、文

人墨客が集っていた山代温泉を訪ねた。このときより初代須田菁華との交流が始まる。菁華53歳、魯山人32歳だった。

魯山人は「私の陶器製作について」という一文で「芸術のことは所詮智恵の問題ではないのである。実は真心の問題であり、熱情の問題」(『魯山人陶説』)だと記している。その点でも、初代菁華と魯山人は意気投合したはずだ。

「器の本来の目的は、使うということ。魯山人が実践したように和食は器によっても、様々な楽しみ方がある。これは本当に贅沢なことだと思いません。食べものために器を作った魯山人は、実に贅沢な人だったわけです」

須田さんの言葉に頷く。敵をつくろうとも本質を突いた発言をし、とにかく権威を嫌った魯山人にとって、山代温泉は至福のひとつを過ぎる場所だったに違いない。

須田菁華さん

1940年生まれ。金沢美術工芸大学洋画科卒業。1981年、3代目没後、4代目襲名。

右/店舗で話をしてくれた4代目須田菁華さん。店には日常使いたい食器が並ぶ。安価なものではないが、大事に作られた価値のあるものを大切に使うという、当然のことを教えられた気がした下/作陶を行う晩年の魯山人



九谷焼の里、山代温泉

石川県九谷焼美術館

いしかわけんくたにやきびじゅつかん
九谷焼専門の美術館。青手・色絵・五彩・赤絵・金襴の3つの間に典型的な作品が並ぶ。
DATA住所: 加賀市大聖寺地方町1-10-13
☎(0761)72-7466 アクセス: 小松空港から車で30分 開館: 9時~17時(入館16時30分まで) 休み: 月曜(祝日は開館) 入館料: 500円 www.kutani-mus.jp



九谷焼窯跡展示館

くたにやきかまあとてんじかん
現代九谷焼のルーツとなる窯跡と1940年築造の窯に隣接し、各種の展示が行われている。
DATA住所: 加賀市山代温泉19-101-9
☎(0761)77-0020 アクセス: 小松空港から車で30分 開館: 9時~17時(入館16時30分まで) 休み: 火曜(祝日は開館) 入館料: 310円 www1.kagacable.ne.jp/kamaato



須田菁華窯

すだせいかかま
豊敷きの店内には、普段使いの九谷焼の器や皿が揃う。建物自体にも歴史が感じられる。
DATA住所: 加賀市山代温泉東山町4
☎(0761)76-0008 アクセス: 小松空港から車で40分 営業: 9時~17時30分 休み: 不定休



白銀屋しろかねや

380年前に創業された老舗の宿で、茶室は国の有形文化財、優雅で落ち着いた趣が漂う。
DATA住所: 加賀市山代温泉18-47
☎(0761)77-0025 FAX: (0761)77-2277
アクセス: 山代温泉駅から送迎バスで約10分、小松空港から車で40分 室料: 1泊2食付き23,000円~ 施設: 食事処、バー&ラウンジ、リラクゼーションルーム、売店、ギャラリーなど クレジットカード: AJMV
www.shiroganeya.co.jp



金

Traditional Craft

沢

上/古九谷から受け継がれてきた青手の平鉢。青といっても緑の釉彩が特徴となっている
下右/大きく3つに分けられる九谷焼だが、その作風は様々
下左/九谷焼窯跡展示館にある九谷焼としては現存する最古の登窯

